

High-Content Analysisの新展開

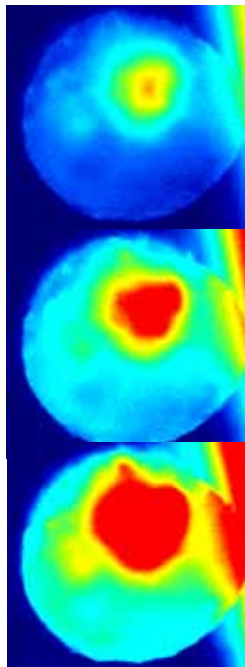
2009年10月16日(金)10時～17時30分(9時30分開場)
機器展示 10時～18時30分

会場：KFCホール10F

都営大江戸線 両国駅A1出入口直結、JR中央・総武線両国駅東口より徒歩約6分

参加費：無料(事前申込み、定員150名になり次第締め切り)

アカデミア・企業の研究者の方のお申込みを優先させていただきます



High-Content Analysis (HCA) 技術が生まれた当時のHCA技術を第一世代とすれば、現在のそれは第二世代であるといわれています。第二世代のHCAは、実用性・安定性も高まり、同時に高機能化も達成しました。しかし、第二世代のHCAの応用範囲があまりにも広いため、ひとことの“HCA”を共有することが難しい場合もあります。

そこで、「HCAの新展開」と称した本セミナーを、業界を代表する5社の共催のもと、最新のHCA技術の基礎から応用までを共有する場としく企画いたしました。

参加される大学・研究機関、企業等の研究者は、あるときには競争者であり、新分野を発展させる共創者でもあります。この場を情報共有、また、ネットワーキングの場としていただければ幸いです。

プログラム

開会の挨拶

コーヒーブレイク 14:30～15:30

演題 1 10:00～10:30

“Primary cells, HTS and HCS: the good, the bad and the ugly”

Richard M. Eglan (President, Bio-discovery, PerkinElmer)

演題 7 15:30～16:00

“細胞運動評価チップを用いた細胞運動に関わる遺伝子のスクリーニング”

藤田聡史先生(産総研セルエンジニアリング部門 主任研究員)

演題 2 10:30～11:00

“平面から立体解析まで、3次元化する細胞イメージングへ”

塩田良氏(株式会社パーキンエルマー・ジャパン ライフサイエンス事業部)

演題 8 16:00～16:30

“ハイスループット細胞機能探索システムによる創薬支援”

鈴木俊之氏(横河電機(株)バイオ・アナリティカルセンター センター長)

演題 3 11:00～11:30

“薬物感受性試験におけるBD Pathwayの利用”

水野勝重先生(立命館大生命科学部生命医科学科 准教授)

演題 9 16:30～17:00

“新規生理活性物質の探索と機能解析”

櫻井武先生(金沢大医 分子神経科学・統合生理学分野 教授)

昼食 11:30～13:00 (昼食をご用意いたします)

演題 4 13:00～13:30

“Application of High-Content Imaging to Stem Cell Biology”

Mindy D. Goldsborough, Ph.D.

(Director, Bioimaging R&D, BD Biosciences)

演題 10 17:00～17:30

“HTS・HCSシステムおよびバーチャルスライドシステムによる創薬支援”

片岡卓治氏、橋本容範氏(浜松ホトニクス(株)システム事業部)

演題 5 13:30～14:00

“がん研究に関する観察機能付き培養器の重要性と可能性”

中面哲也先生(国立がんセンター東病院 機能再生室長)

閉会の挨拶

機器展示会場:10:00～18:30

演題 6 14:00～14:30

“細胞培養観察装置「BioStation」のご紹介”

株式会社ニコン インストルメンツカンパニー

「High-Content Analysisの新展開」は5社共催です(アイウエオ順)

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

浜松ホトニクス株式会社

株式会社パーキンエルマー・ジャパン

株式会社ニコンインステック

横河電機株式会社

事前申し込み受付中。お早めに下記までお申込みください。

High-Content Analysisの新展開

日時：2009年10月16日(金) 会場：KFCホール10F
横河電機主催講演 15時30分～16時30分

講演7

『細胞運動評価チップを用いた細胞運動に関わる 遺伝子のスクリーニング』

演者：(独)産業技術総合研究所

セルエンジニアリング研究部門 細胞情報工学研究G

主任研究員 藤田聡史先生

「細胞運動」を指標にした解析法に用いる「細胞運動性評価チップ」(特願 2007-144215, Nagasaki, R. et al., (2008) Lab Chip, 9, 1502-1506.)は、従来法(Wound-Healing Assay, Boyden Chamber Assay)と異なり、手順が簡便、大規模解析が容易、細胞運動を阻害する因子のスクリーニングが容易、細胞運動に直接関わる因子の評価が可能といった特徴を持つ新規手法です。

本講演では、CellVoyager™の細胞認識、追跡ソフトを用いたチップ上の細胞運動の解析、細胞運動を亢進または阻害に関わる遺伝子のスクリーニング等について紹介いたします。

講演8

『ハイスループット細胞機能探索システムによる創薬支援』

演者：横河電機株式会社

バイオ・アナリティカルセンター長 鈴木俊之

CellVoyager™は、生細胞に薬の候補となる化合物を投与し、細胞内の変化などを世界最高レベルの高分解能で撮影、得られた画像を処理して 化合物投与による影響を確認するまでの過程を、自動的にかつ世界最高レベルの測定スピードで実現することができる画期的な創薬支援システムです。

今回は、製品の要素技術と創薬研究における画像解析技術等についてご紹介いたします。

High-throughput Cytological Discovery System



Cell Voyager

All in One -細胞培養からデータ解析まで-

特 徴

- 業界最先端のライブセル観察機能
マイクロレンズアレイ付ニボウディスク方式採用の
共焦点スキャナユニットを搭載
- 業界最速のスクリーニング
- 業界最高レベルの光学技術
- 多機能データ取得・解析ソフトウェア

細胞培養

プレート
搬送

分注

撮影

レポート
作成

データ
解析

画像
解析

展示ブースにてイメージング&解析技術の紹介を行います。ご来場お待ちしております。

お問い合わせ・お申し込み：

横河電機(株) 通信・計測事業部 バイオ・アナリティカルセンター 創薬バイオGr

TEL 0422-52-5550

E-mail HCA@cs.jp.yokogawa.com

担当：古澤・三島

Home page <http://www.yokogawa.co.jp/scanner/hca.htm>